

会 議 録

会議名 (審議会等名)		相模原市環境影響評価審査会				
事務局 (担当課)		環境政策課 電話042-769-8240(直通)				
開催日時		令和元年9月30日(月) 18時00分~20時30分				
開催場所		ソレイユさがみ セミナールーム1				
出席者	委員	10人(別紙のとおり)				
	その他	7人(事業者)				
	事務局	6人(環境共生部長、環境政策課長、他4人)				
公開の可否		可	不可	一部不可	傍聴者数	12人
公開不可・一部不可の場合は、その理由		重要な動植物の生息地に関する情報については、重要種の乱獲等に繋がるおそれがあることから、重要種を保護するため				
会議次第		1 開会 2 議題 (1) 諮問 太陽光発電事業に係る環境影響評価の在り方 「(仮称)津久井農場計画」環境影響評価準備書 (2) 受理報告 「GLP相模原プロジェクト」環境影響評価書				

審 議 経 過

主な内容は次のとおり。(は委員の発言、 は事業者の発言、 は事務局の発言)

1 開会

定足数の確認の上、開会した。

2 議題

片谷会長の進行により議事が進められた。

(1) 太陽光発電事業に係る環境影響評価の在り方について

法改正に伴う本市条例における太陽光発電事業に係る環境影響評価の在り方について、本審査会への諮問があり、「資料1-1」及び「資料1-2」を基に、その提案内容が事務局から説明された。

他自治体の環境影響評価条例における太陽光発電事業の位置づけについて、参考事例として次回の審議資料にしてはどうか。

(2) 「GLP相模原プロジェクト」環境影響評価書について

「GLP相模原プロジェクト」に係る環境影響評価書について、事務局から受理報告された。

受理日と縦覧開始日が異なっているが、理由は何か。

各縦覧場所への図書の郵送等に要する事務処理期間である。

(3) 「(仮称)津久井農場計画」環境影響評価準備書について

「(仮称)津久井農場計画」に係る環境影響評価準備書について、本審査会への諮問があり、「資料2」を基に、その手続状況が事務局から説明された。

また、事業者から当該準備書の概要が説明された。

牧草地を設置しない計画に変更したとのことだが、牧草の運搬車の交通量はどの程度なのか。

1か月から数か月に1回、大型車での搬入を想定している。

方法書時と比較すると調整池の面積が減少しているが、理由は何か。

調整池の構造を見直して調整池外周を擁壁とした結果、流域面積から算定した調整容量に対して、必要面積を狭くすることが可能となった。

埋立てる土砂の搬入元はどこか。

複数の事業者と調整中であるが、土質の安定性の観点からも可能であれば1か所から搬入したいと考えている。

谷を埋立てる事業であるが、地滑りへの対策を講じているのか。

詳細設計はこれからだが、これまでの事例も参考としながら、土砂災害が生じないように設計する。

谷を埋立てる事業では下流側の対策が重要であるが、どのような設計なのか。

安全性の確保が重要であり、近隣住民の不安解消のためにも、詳細設計が決まった段階で、情報を公表しながら事業を進められたい。

下流側の地盤安定性を高めるため、擁壁の設置や地盤改良などを行う形で検討中である。

情報の公表については、土砂条例に基づく説明会を開催する他、地元の要望に応じて可能な限り対応していく。

市道志田線の拡幅について、断面図はあるが、詳細が不明なため、もう少し説明してもらいたい。この拡幅については実現可能な計画なのか。

歩道がない1車線の道路を、南側に3メートルの歩道を設置するとともに2車線にするものである。車道2.75メートル、路肩0.25メートルの計3メートルとするものだが、大型車が通行するには狭いという意見があることも承知している。

なお、道路管理者等の関係部局とは調整中ではあるが、農業委員会や地権者の御意見を踏まえ、実現可能な計画を進めていく考えである。

拡幅する延長距離はどの程度なのか。

また、拡幅は一時的なものなのか。

市道志田線について、一般国道412号との交差点から計画地に至る範囲を拡幅したいが、住宅地と農地のみエリアは道路管理者、農業委員会及び地元住民の御意見を参考にしながら計画していく。

一時的になるか永続的になるかは道路管理者等との調整結果によるが、現段階においては工事後には原状復帰するように指導を受けている。

拡幅工事は、市との共同事業ではなく、事業者が単独でやるものなのか。

事業者の費用負担のみで実施するものである。

拡幅工事は、工事工程のどこに当たるのか。

具体的には未定だが、盛土工事前までには実施することを考えている。

悪臭の予測において類似事例を用いているが、その類似性や苦情の有無は。

また、類似性については、評価書時に追記されたい。

準備書の現地調査を実施後に牛舎構造がコンポストバーン方式を採用することが決まったため、コンポストバーン方式の類似施設で現地調査を再実施しているところであり、評価書時に反映する予定である。また、苦情があるとは聞いていない。

予測結果では悪臭を抑制することが可能となっているが、実際に悪臭が発生してしまった場合の対応はどうか。

消臭剤の使用等による悪臭対策を検討している。

景観の現地調査を夏季に実施しているが、冬季にも調査をした方が良いのではないか。

他事例で落葉期の調査を追加したことは承知しているが、本事業では夏季と冬季で変化が少ないことから不要と判断した。

なお、設置予定の調整池の西側において、現地調査地点の追加を検討中である。

ふれあい活動の場のハイキングコース等から改変区域は視認できるのか。視認出来る地点と出来ない地点がわかるようになっていると良いのではないか。

視認出来ない地点が多く、雨乞山山頂から改変区域は見え、対象事業実施区域近傍のCN-1 地点付近からも改変区域は見通せない。

(欠席委員意見代読) 方法書時の指摘に対応されており、市内における伐採樹木の再資源化の可能性が理解出来た。

環境保全措置にある「飼育牛の排泄物等の堆肥化、農家への配布」は廃棄物対策としては良い方法だと思うが、悪臭への影響について留意する必要がある。

悪臭の予測の中で対応出来ていると考えるが、わかりやすさの観点等から記載の仕方について検討する。

【以降、非公開】

重要な動植物の生息地に関する情報について、審議が行われた。

以上

相模原市環境影響評価審査会委員出欠席名簿

	氏 名	所 属 等	備 考	出欠
1	小根山 裕之	首都大学東京 都市環境学部 教授		出席
2	片谷 教孝	桜美林大学 リベラルアーツ学群 教授	会長	出席
3	加藤 ゆき	神奈川県立生命の星・地球博物館 主任学芸員		欠席
4	亀卦川 幸浩	明星大学 理工学部 教授		欠席
5	黒田 道子	東京工科大学 名誉教授		欠席
6	桑原 勇進	上智大学 法学部 教授		出席
7	菅原 敬	首都大学東京 理学研究科 准教授		出席
8	田中 修三	明星大学 理工学部 教授	副会長	出席
9	塚田 英晴	麻布大学 獣医学部 准教授		出席
10	畠山 吉則	日本大学 生物資源科学部 准教授		出席
11	御法川 学	法政大学 理工学部 教授		欠席
12	宮脇 健太郎	明星大学 理工学部 教授		欠席
13	室田 昌子	東京都市大学 環境学部 教授		出席
14	屋代 雅充	元 東海大学 観光学部 教授		出席
15	吉永 龍起	北里大学 海洋生命科学部 准教授		出席